

製品名: PKM2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16220**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	58kDa

抗原情報

遺伝子名	PKM
別名	PKM; OIP3; PK2; PK3; PKM2; Pyruvate kinase isozymes M1/M2; Cytosolic thyroid hormone-binding protein; CTHBP; Opa-interacting protein 3; OIP-3; Pyruvate kinase 2/3; Pyruvate kinase muscle isozyme; Thyroid hormone-binding protein 1; THBP1; Tu
遺伝子 ID	5315.0
SwissProt ID	P14618
免疫原	抗血清はヒト PKM2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 181-230

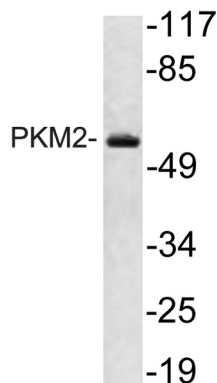
背景

この遺伝子は解糖系に關与するタンパク質をコードしています。コードされているタンパク質はピルビン酸キナーゼであり、ホスホエノールピルビン酸から ADP へのリン酸基の転移を触媒し、ATP とピルビン酸を生成します。このタンパク質は甲状腺ホルモンと相互作用することが示されており、甲状腺ホルモンによって誘導される細胞代謝効果を媒介する可能性があります。このタンパク質は、淋菌のヒト細胞への付着および侵入に關与する細菌外膜タンパク質である Opa タンパク質に結合することが分かっており、このタンパク質が細菌の病原性において役割を果たしていることを示唆しています。いくつかの異なるアイソフォームをコードする、選択的スプライシングを受けた複数の転写バリエーションが報告されています。 [RefSeq 提供、2011 年 5 月],触媒活性: ATP + ピルビン酸 = ADP + ホスホエノールピルビン酸。補因子: 二価金属陽イオン。補因子: マグネシウム。補因子: カリウム。酵素調節: アイソフォーム M2 は、D-フルクトース 1,6-二リン酸 (FBP) によってアロステリックに活性化されます。シュウ酸および 3,3',5'-トリヨード-L-チロニン (T3) によって阻害されます。機能: ホスホエノールピルビン酸 (PEP) から ADP へのリン酸基の転移を触媒し、ATP を生成する解糖酵素。その他: 哺乳類には、ピルビン酸キナーゼの 4 つのアイソザイム (L、R、M1、M2) があります。L 型は肝臓の主要なアイソザイム、R 型は赤血球に存在し、M1 型は筋肉、心臓、脳に多く存在し、M2 型は初期胎児組織およびほとんどの癌細胞に存在します。オンライン情報: ピルビン酸キナーゼへの進入経路: 炭水化物分解; 解糖; D-グリセルアルデヒド 3-リン酸からのピルビン酸: ステップ 5/5。PTM: DNA 損傷時にリン酸化される (おそらく ATM または ATR による)。類似性: ピルビン酸キナーゼファミリーに属する。サブユニット: モノマーおよびホモテトラマー。FBP 非存在下ではモノマーとして存在し、FBP 存在下では可逆的に会合してホモテトラマーを形成する。モノマー型は T3 に結合する。テトラマー形成はピルビン酸キナーゼ活性を誘導する。HERC1 と相互作用する。、

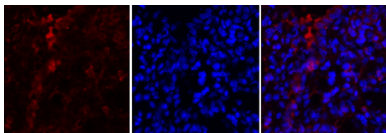
研究分野

解糖系/糖新生;プリン代謝;ピルビン酸代謝;2 型糖尿病;

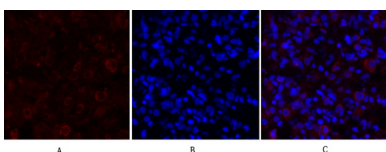
画像データ



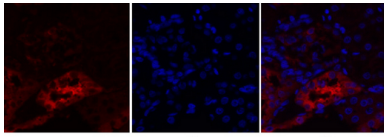
PKM2 抗体を使用した HT29 細胞の溶解物のウエスタン ブロット分析。



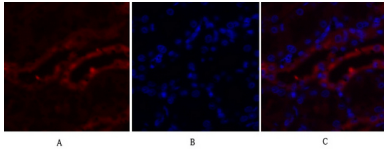
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, PKM2 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



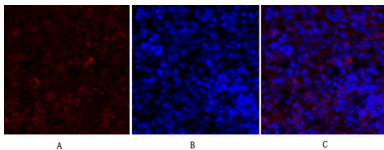
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, PKM2 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



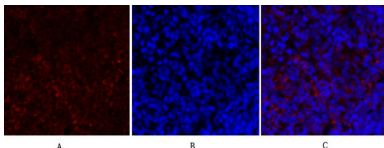
ラット腎臓組織の免疫蛍光染色。1, PKM2 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



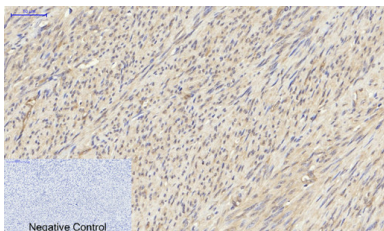
ラット腎臓組織の免疫蛍光染色。1, PKM2 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



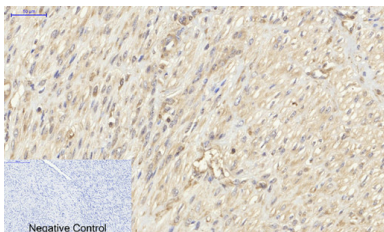
ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, PKM2 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, PKM2 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



パラフィン包埋ヒト子宮組織の免疫組織化学染色。1. PKM2 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト子宮癌組織の免疫組織化学染色。1. PKM2 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。